

令和4年度

事業可能性評価 A評価事業

公益財団法人岐阜県産業経済振興センター

目次

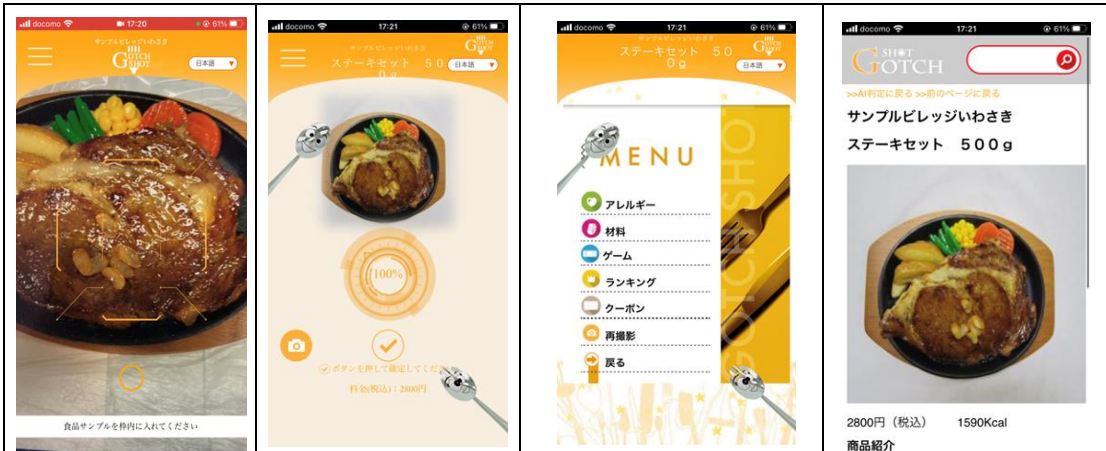
(五十音順)

DX（AI）技術を用いた食品サンプルの新たな情報コンテンツサービス 岩崎模型製造株式会社	 1
スピルリナ（藻）の製造・販売事業 株式会社SY	 2
コテ作業からの脱却！ 土間ならせーるシリーズ コロコロドマー 株式会社F - tec	 3
“危険予知・自助に役立つ防災IoTセンサの開発と販路開拓” 有限会社デザインオフィス・シィ	 4
日本初超硬合金包丁の開発と量産化 福田刃物工業株式会社	 5

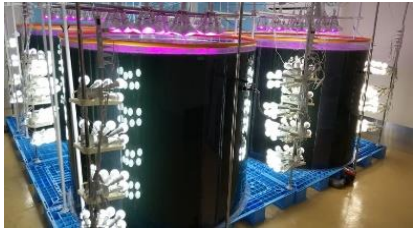
【事業可能性評価事業とは】 【A評価（事業可能性大）企業への支援策】 【これまでにA評価を受けた企業数】 【A評価を受けた企業の声】 【お問い合わせ】	 6
---	---------

今年度は5社が
受証しました！

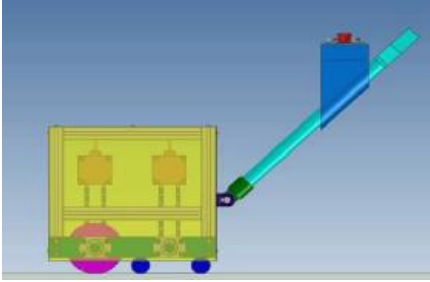


事業名	DX（A I）技術を用いた食品サンプルの新たな情報コンテンツサービス			
概要・特徴	【概要】 デジタル化や情報化が進む昨今、あえて「三次元」である食品サンプルをデジタル分野と融合させるというアイデアから、DX技術を用い、食品サンプル自体が情報を発信するコンテンツサービスを開発しました。現代の「食」は、安全・安心であること、体質や信条による食材の制限、フードロスの対策など、様々なことが求められています。飲食店をはじめとする「食」を提供する側は、限られた中で多くの「情報」を提供していかななくてはなりません。 このサービスにより、食品サンプルは、これまでの誘客・販促としての役割に加え、新たな「情報発信ツール」という価値が付加された商品となります。			
	【特徴】 この新たなサービスは、お客様が食べてみたいメニューの食品サンプルにスマホをかざして撮影すると、食品サンプル自体がコードとなって、情報サイトに導きます。 そして、そのサイトで食品サンプルを撮影した料理の食材や原産地など、あらゆる情報コンテンツが得られるという、A Iを活用した仕組みです。			
				
	スマホで撮影	A Iが判定	メニューコンテンツ	詳細情報画面
	現在、モデル店舗にて機能や改善点等の調査のほか、ユーザーや店舗側から、ご意見・ご要望を伺うなどのマーケティングを行っています。			

企業名	岩崎模型製造株式会社
代表者	代表取締役 小酒井 誓吾
HP	https://www.iwasakimokei.com/
所在地	岐阜県郡上市八幡町城南町250
電話	0575-65-2832
E-mail	kozakai@iwasakimokei.co.jp

事業名	スピルリナ（藻）の製造・販売事業
概要・特徴	【概要】 令和3年度の日本の食料自給率は38%（カロリーベース換算）で、62%は海外からの輸入に頼り、海外依存度が高い状況です。当社がスピルリナ事業を展開する岐阜県羽島市でも、農業就業人口の減少が進んでおり、日本全体では、さらに大きく減少しています。 また、2030年ころには、世界的にたんぱく質が不足し、2050年ころには食料が不足すると問題視されています。 当社は、岐阜県羽島市でのスピルリナ事業を通じて、農家の方や自治体と協力して地方を活性化させ、国内の食料自給率を上げるとともに、将来的には、たんぱく質不足及び食料不足の問題解決を目指します。 ■スピルリナ事業の目的 1. 岐阜県羽島市の地方創生 2. 日本の食料自給率改善 3. たんぱく質不足及び食料不足の問題解決 【特徴】 スピルリナは、約35億年前に誕生した藍藻類（らんそうるい）に属する藻の一種で、60種類の栄養成分を含み、たんぱく質含有率の高さ（約70%）から『スーパーフードの王様』と呼ばれています。現在、スピルリナの栽培・製造は海外が主流です。 当社は国内でスピルリナ栽培のノウハウを確立し、約10年の開発期間をかけて、安全・安心・高品質なスピルリナの商品化に成功しました。スピルリナを栽培する水槽設備から栽培・製造・販売まで一貫して事業を行えるのが強みです。当社が栽培するスピルリナを『明日を元気にする藻』という由来で、ブランド名『アスモ』として販売展開していきます。  ■アスモ（スピルリナ粉末）  ■アスモ（スピルリナ）の栽培状況

企業名	株式会社S Y		
代表者	代表取締役 北代 耕太		
HP	https://3pouyosi.jp		
所在地	岐阜県羽島市正木町曲利34番地1		
電話	058-372-3635	E-mail	kohta-kitadai@3pouyosi.jp

事業名	コテ作業からの脱却！ 土間ならせーるシリーズ コロコロドマー		
概要・特徴	【概要】 外構工事において、作業頻度が高いものの一つが「土間コンクリート施工」です（右写真）。この作業は、基本的に手作業でコテ等を使用して行うため、どうしても工数がかかることが問題となっています。 一定以上の広い面積（工場の屋内等）の施工であれば、「トロウエル」という専用のコンクリート均し機（機械ゴテ）を使用して施工することができますが、施工品質を確保するための最終仕上げは手作業で行わなければなりません。 また、個人宅の駐車場等の面積では、機械が大きすぎて操作性が良くないという欠点があります。このため、小規模な土間コンクリート施工は、手作業で行うしかなく、生産性向上の足かせとなっています。 このような課題を解決して、駐車場等の中小規模の土間コンクリート施工の生産性向上を図るため、新たな「土間コンクリート均し機（コロコロドマー：左下図・右下写真）」を開発しました。		
	  【特徴】 コロコロドマーは、既にある大型の機械をコンパクトにしたものではなく、機械下部にある2本のローラーがそれぞれ設定した品質に合わせて電力稼働する仕組みになっています。作業員スキルのバラツキが多い建設業界において、土間コンクリート施工時に専用機械で施工することによって、安定した品質を確保しながら生産性の向上を図ることができます。 また、土間コンクリート施工の機械化により、高品質・短納期での施工が可能となるため、コテによる手作業に対して性能的な優位性を確保できます。		
企業名	株式会社 F-tec		
代表者	代表取締役 藤井 啓栄		
HP	https://www.ftec-garden.co.jp/		
所在地	岐阜県可児市土田字堀口4185-4		
電話	0574-66-5111	E-mail	spg25fx9@road.ocn.ne.jp

事業名	“危険予知・自助に役立つ防災IoTセンサの開発と販路開拓”
概要・特徴	【概要】 当社は、平成30年7月豪雨において、裏山の谷川が増水・越流し、床下浸水の被害を受けました。近隣の住宅では土石流が家の中を流れ、社屋前の河川にかかる橋が今にも流されそうなほど、増水していました。避難時にはゴロゴロと岩の転がるような音が聞こえ、一同大変怖い思いをしたものです。 自治体などが発出する避難情報は、レーダーなどの降雨情報に基づいており、現地の状況に即していないことがあります。また、自分の身は自分で守るという“自助”の観点から、近隣の情報は自分で集め、危険が感じられる場合には、自治体による避難情報の前に、自主的に避難することが重要であると痛感しました。偶然にも当時、当社ではある企業からの依頼により、井戸などの水位情報をIoTセンサを通じて集めるというプロジェクトに携わっている最中でした。そこで、この技術を応用し、機器の傾斜等により、土石流や斜面の崩落などの予兆を捉えるシステム「さるぼぼアラーム」を考案したのです。 【特徴】 「さるぼぼアラーム」は、IoT技術を応用した遠隔操作機器です。豊富な回路開発経験に基づき、極限まで消費電力を低減(約10mW)しているため、小さなソーラーパネルで電力を賄うことができ、以下のメリットがあります。 メリット1「だれでも」・・・軽量(200g)で、だれでも製品を簡単に持ち運ぶことができ、大掛かりな資機材等の運搬は不要です。 メリット2「どこでも」・・・どこでも手軽に持ち運んで、取り付けを行うことができます。(支柱等に取付) メリット3「いつまでも」・・・ソーラーパネルの発電により、従来の観測機器に必要であった電源供給や定期的な電池交換が不要です。  「さるぼぼアラーム傾斜 0.5W モデル」  「さるぼぼアラーム傾斜 10W モデル」

企業名	有限会社デザインオフィス・シー		
代表者	代表取締役 星谷 貴則		
HP	https://designofficesee.com		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山827番地1		
電話	0576-34-0028	E-mail	info@designofficesee.com

事業名	日本初超硬合金包丁の開発と量産化
概要・特徴	【概要】 当社は、超硬合金を利用した工業用刃物の製造を得意としています。超硬合金は素材の中でも非常に硬いため、切れ味抜群かつ長寿命を実現できるなどポテンシャルが高い素材です。その反面、加工が非常に難しいため、薄くて鋭利な包丁には不向きであり、これまで包丁業界では利用できませんでした。 今般、新しい包丁の製作を刃物産業の中心地、岐阜県関市から発信したいという強い思いから、FUKUDAの加工技術とエンジニアによって、日本初の超硬合金包丁「KISEKI:」を開発・量産化します。 【特徴】 超硬合金包丁「KISEKI:」は、以下の特徴があります。 ① 刀身部分に超硬合金、柄部分に岐阜県産天然木を使用（左下図）。従来の包丁より切れ味がアップしたことで食物の繊維をつぶさず切ることができ、「おいしくなる包丁」を実現（右下図）。また、切れ味寿命は、鋼包丁に比べ2倍以上。 ② 製品製造は、自社工場で一貫生産（※樹脂部分のみ外注）。難しい加工も、オリジナルの製造方法・専用加工機を用いることで量産化を実現。 技術の先端性  KISEKI: おいしくなる包丁 KISEKI:  味覚の科学分析を行うAISSYにて他のステンレス包丁と味の分析比較を行ったところ、甘味が多く苦味が抑えられていることが証明された 一般消費者の声を聞くため、2022年11月1日にクラウドファンディングを実施しました。大変好評で、見込みを大幅に上回る応募がありました（応募購入本数1,450本、完売）。こうした声に応えるために、今後は自社ECサイト等を利用した販売展開をする計画です。

企業名	福田刃物工業株式会社		
代表者	代表取締役社長 福田 克則		
HP	https://www.fukuda-web.co.jp/		
所在地	岐阜県関市小屋名353		
電話	0575-28-5888	E-mail	eigyo@fukuda-web.co.jp

【事業可能性評価事業とは】

企業の事業プランを、現役の経営者も含めた複数の専門家からなる評価委員が、事業の有望性・技術の先端性・発展性等を総合的に分析し、事業化の可能性をA、B、Cの三段階で評価します。

応募された企業には、当センターが継続的なアドバイス等、評価の段階に応じて必要な支援を行います。特にA評価を受けた企業は「金融機関・マスコミへの積極的紹介」などの支援を得ることができます。

【A評価（事業可能性大）企業への支援策】

- ① 金融機関・マスコミへの積極的紹介
- ② 当センターが実施する、投資家や融資関係者向けのビジネスプラン発表会への優先的出席
- ③ 岐阜県の中小企業資金融資制度の対象（長期固定の低金利、信用保証料の一部を県が負担）
※融資を受けるには、別途、金融機関及び県信用保証協会の審査が必要となります。
- ④ その他、当センターによる積極的な事業支援

【これまでにA評価を受けた企業数】

平成 14 年度	1 社	平成 15 年度	4 社	平成 16 年度	6 社	平成 17 年度	8 社
平成 18 年度	7 社	平成 19 年度	10 社	平成 20 年度	8 社	平成 21 年度	7 社
平成 22 年度	7 社	平成 23 年度	9 社	平成 24 年度	9 社	平成 25 年度	17 社
平成 26 年度	11 社	平成 27 年度	14 社	平成 28 年度	14 社	平成 29 年度	12 社
平成 30 年度	8 社	令和元年度	10 社	令和 2 年度	7 社	令和 3 年度	7 社
令和 4 年度	5 社	計 延べ 181 社（実数 164 社）					

【A評価を受けた企業の声】

- PR効果・販路開拓
「新聞・テレビ等、マスコミに取り上げられたことで、新たな取引先の開拓に結びついた」
「今まで低迷していたが、問い合わせ・引き合いが、大幅に増えた」
- 資金調達
「金融機関からの新規融資に結びついた」「補助金が採択された」
- モチベーション
「社員のモチベーションアップ・やる気アップにつながった」
- その他、効果
「会社・商品の信用力が増し、営業しやすくなった」

【お問い合わせ】

公益財団法人岐阜県産業経済振興センター 産業振興部 総合支援課
TEL : 058-277-1080 E-mail : sien@gpc-gifu.or.jp